

ロンドン東部における文化・教育・ファッション（スポーツ以外）のレガシー

概要

現在、2012年のロンドンオリンピック・パラリンピック競技大会（以下「ロンドン大会」という）が開催されたクイーン・エリザベス・オリンピック・パーク（以下「パーク」という）内の二つの敷地で、同大会のレガシーの一部として文化・教育地区（以下「文教地区」という）の開発が進行中だ。ロンドン大会の象徴であったロンドンスタジアム、アルセロール・ミッタル・オービット、アクアティックス・センターといった施設の周辺に共に位置している。この文教地区は、芸術や文化、クリエイティブ産業を通じて都市生活の質の向上を目指す国際的なネットワーク¹にも名を連ねている。単独で訪れる価値のある場所とすべくイーストバンク（ロンドンのサウスバンク²にならって命名された）と改称されて以来、本文教地区の発展は、ロンドン大会のプレス・放送センター跡にテック産業のインキュベーター、学術機関など³を擁する複合施設として開発された Here East を範としている。



パーク内イーストバンク（未来予想図）

経緯

ロンドン・レガシー開発公社（以下「レガシー開発公社」という）は、ボリス・ジョンソン氏が市長であった2013年、オリンピックポリス（Olympicopolis）計画を発表した。これは、パーク内におけるロンドン大会のレガシーの主要な部分を占め、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（以下「UCL」という）、ヴィクトリア&アルバート美術館（以下「V&A」という）及び米国のスミソニアン協会、ロンドン芸術大学（以下「UAL⁴」という）、

¹ <https://gcdn.net/member/cultural-and-educational-district-on-the-olympic-park/>

² <https://www.southbankcentre.co.uk/venues>

³ <https://hereeast.com/discover/whos-here/>

⁴ <https://www.arts.ac.uk/about-ual>

ロンドン調査員レポート

サドラーズ・ウェルズ⁵等をパートナー/テナントとするものだ。2014年11月には、文教地区に対する政府支援が表明され、続いて財務相が、国家基盤計画⁶の一環としてロンドン市への1億4,100万ポンドの資金提供を発表した。2015年11月の歳出見直し（Spending Review）においても、この支援が再確認され、政府の資金提供の金額は1億5,100万ポンドに拡大された。

UCLのEast校舎のリース契約は、マーシュゲイト（サウスローンに大学施設）とプールストリート（学生寮と大学の混合使用の施設）の施設に関し、レガシー開発公社とUCLとの間で2014年4月に交わされた。これにより、パーク内において、3つの施設が2段階で開発されることとなった。

- マーシュゲイトとプールストリートに35,000 m²以上の大学施設、プールストリートウェストに最大15,000 m²の学生寮兼職員住宅を開発する【第1期】
- さらに75,000 m²超の開発を行う【第2期】

ロンドン・アクアティックス・センターに隣接する4.2エーカーの敷地（ストラットフォード・ウォーターフロント）については、レガシー開発公社が2016年4月、UAL、サドラーズ・ウェルズ、V&Aへのリースを決めた。概ね以下のような構成となる。

- UALのロンドン・カレッジ・オブ・ファッションの大学施設（36,000 m²、399年リース）
- サドラーズ・ウェルズ イーストの劇場（550席）とダンススタジオ（8,000 m²、200年リース）
- V&A イーストの博物館スペース（米国スミソニアンと提携。6,000 m²、200年リース）

そしてイーストバンクへ

2018年6月、現ロンドン市長のサディク・カーン氏は、ストラットフォード・ウォーターフロント・マスタープランに関するパブリックコメント募集に先立ち、イーストバンクの計画変更を発表した。これには、ロンドン市からの3億5,300万ポンドと並んで、政府からの1億5,100万ポンドの資金拠出の再確認が含まれていた。市長はさらに、この計画に基づ

⁵ <https://www.sadlerswells.com/about-us>

⁶ <https://www.gov.uk/government/news/ambitious-plans-for-housing-flood-defence-and-roads-set-out-in-national-infrastructure-plan-2014>

なお、ロンドン市と当時のコミュニティ・地方自治省が結んだ合意書にも言及されている。

き建設される新規住宅の少なくとも 50%を適正価格住宅（affordable housing）とするとの変更と、文教地区の新たなテナントとして BBC オーケストラの移転も発表した。

ケーススタディ：ファッション地区

ファッション地区は、イーストバンクを中心に、近隣のハックニー・ウィックやポプラーの拠点を連携させて、パーク内とその周辺にファッション業界の新たなハブを構築することを目指すものだ。全体目標としては、ロンドン東部で 15,000 の新たな雇用の創出と、地域の技能と訓練体制のレベルアップや手頃な費用で作業スペースを提供できるようにするとともに、2022 年からは UAL ロンドン・カレッジ・オブ・ファッションの 5,500 名の学生を文教地区に迎え入れることである。こうしたコンセプトは、ロンドン東部のファッションとテキスタイル製造の長い歴史と伝統から生まれたものであり、ロンドン大会の開催区であるハックニー、ニューアム、タワーハムレッツをはじめ、UAL ロンドン・カレッジ・オブ・ファッション、英国ファッション協議会、英国ファッション&テキスタイル、ロンドン市、レガシー開発公社、Here East 等の多岐にわたるパートナーによりこの取組は進められている。

また、同地区については、ロンドンのクリエイティブ産業を支える重要な施策としてロンドン市長の経済開発戦略の中にも位置付けられており、業界のグローバルな競争力の維持に悪影響を及ぼす構造的な問題に対し、効果的な対処を可能とすることであろう。すなわち、資金へのアクセスや低価格で利用できるスペースや技術等によってである。特に、同地区のパートナーたちは、高級ファッションが英国からアジア、欧州、中東、北米への輸出品のカギとなると考えたが、ファッションブランドの失敗率は、他の産業での輸出と比べて、突出して高いのである。

なお、同地区の目的は以下の通りである。

- ロンドンをファッションテクノロジーのグローバルハブにする（ファッション・テック）
- ロンドン経済全体を底上げする
- 各セクターでメイド・イン・ブリテンを支援する
- ロンドン東部のファッション・ヘリテージを復活させる
- 未来に向けたレガシーを創造する

ロンドン調査員レポート

UAL ロンドン・ファッション・カレッジ・オブ・ファッションとロンドン市は、英国とロンドンの経済的プロファイルに基づいて同地区の必要性の証拠を評価するために、BOP コンサルティング⁷に単独での調査レポートを依頼した。その報告書には、以下の事柄が示されている。

- 英国ファッション業界が英国経済に与える直接価値は 281 億ポンドと試算されており、自動車産業や化学産業の 2 倍にあたる。
- ファッションの GDP への貢献の総額は 500 億ポンドを超えており、英国 GDP の 2.7% に相当する。
- ファッション業界は、全小売業の GVA の 22.2% を占め、英国の製造業生産高の 2.5% を占めている。
- 全世界的にファッション業界を見ると、年間で約 2.4 兆～3 兆米ドル規模と試算されている。

ロンドンに関する部分については以下のとおり。

- ロンドン東部とアッパー・リー・バレーを合わせた地域のファッション業界の GVA は現在 14 億ポンドであり、2010 年と 2015 年の比較で 5 億ポンド（57%）増えている。
- 2016 年の初めには、ファッション業界の小売、デザイン、製造、流通、広告に計 36,200 名が直接雇用されており、2010 年との比較で 10,900 件の増であった。

しかしながら、低価格な作業スペースの確保や技術の向上、資金へのアクセスなどの構造的な問題は、ロンドン東部において他業界が成功を収めたことやブregジット等の影響により未だ残っている。したがって、同地区がこれらの問題を解決するためには、技術力の向上、安価な作業スペース、研究開発への投資をスピードアップさせることが必要であるといえよう。また、ローカルファッションの強みをバーバリーや Nike といったグローバルブランドや独立デザイナーを通じて推進し認知度を向上させたハックニーのファッション・ハブ（詳細は弊所 2014 年 11 月のマンスリートピックをご参照のこと⁸）の成功にひき続いた取組を進めていくことも重要だ。なお、ハックニー・ウィックは、ロンドン市長から初のクリエイティブ事業地区に指定されている。

⁷ <http://bop.co.uk/about-us>

⁸ http://www.ilgc.org.uk/jp/wp-content/uploads/2014/12/nov_2014_uk_021.pdf